

# 精度管理調査に関するアンケート

精度管理事業部事務局員：西谷由美子  
(総合大雄会病院 TEL:0586-72-1211)

## I. はじめに

本年度の精度管理調査は日本臨床衛生検査技師会精度管理事業・データ標準化事業システム（JAMTQC）を利用し、昨年度と同時期に実施した。

また、精度管理調査と同時にアンケート調査を実施し、参加施設から貴重なご意見を頂いた。次年度以降の精度管理事業展開へ反映させるべく、以下にその集計結果を示す。

なお、ご意見・ご要望等にて重複した内容については割愛させて頂いた。

## II. 対象項目

JAMTQC内にてアンケート設問を設定し、回答を求めた。

### 【アンケート内容】

#### 1. 技師長クラス対象

本精度管理調査の参加費の妥当性、日臨技精度保証施設認証制度、総括統計表、事業全般に対する意見や要望を調査した。

#### 2. サンプルサーベイ部門

項目数、試料の量に関する調査を行った（2題）。

#### 3. フォトサーベイ部門

設問量、難易度、設問内容に関する調査を行った（3題）。

#### 4. 評価対象外設問を出題した部門

設問量、難易度、設問内容、評価対象外設問の必要性に関する調査を行った（4題）。

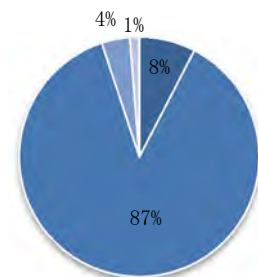
### 【対象施設】

アンケート調査は2019年度愛知県臨床検査精度管理調査に参加した148施設を対象とした。

## III. 調査結果

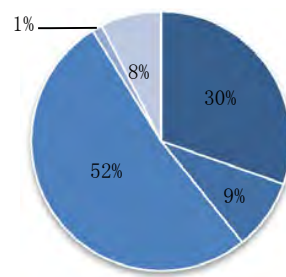
### 1. 愛知県臨床検査精度管理全般

#### 1) 本調査の参加費について



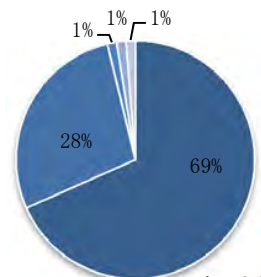
■ 高いと思う ■ 妥当と思う  
■ 安いと思う ■ 未回答

#### 2) 「日臨技精度保証施設認証制度」について



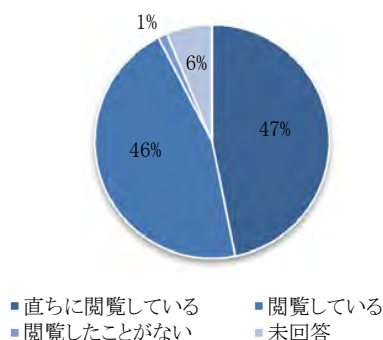
■ 受審済み ■ 受審を予定している  
■ 受審の予定はない ■ 認証制度を知らない  
■ 未回答

#### 3) 昨年6月に医療法の一部を改正する法律（平成29年法律第57号）が公布され、検体検査の精度管理の基準や管理等を明確化することが盛り込まれたことについて



■ よく知っている ■ なんとなく知っている  
■ 知らない ■ 分からない  
■ 未回答

4) 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表閲覧について

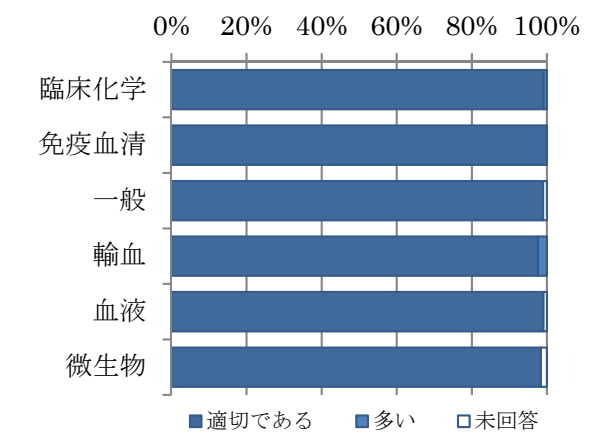


5) 精度管理事業全般に関する要望・意見について

- ・日臨技、愛臨技、日医の精度管理調査時期はもう少し間隔をあけて実施してほしい。
- ・「日臨技精度保証施設認証制度」は今後どのような方向性で進めるのか。ISO15189との違いを明確にする必要があると思うが、JCCLS共用基準範囲をもっと推進してほしい。
- ・ALPとLDのIFCC化をどのように展開する予定か。愛臨技としての方向性を教えてほしい。
- ・微生物部門の菌名マスターをアルファベット順に並べてほしい。
- ・測定日を一括で入力できるようにしてほしい。

2. サンプルサーベイ部門

1) 測定項目数について



	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	99.1	0.9	0.0	0.0
免疫血清	100.0	0.0	0.0	0.0
一般	99.0	0.0	0.0	1.0
輸血	97.6	1.2	0.0	1.2
血液	99.1	0.0	0.0	0.9
微生物	98.4	0.0	0.0	1.6

内訳(%)

2) 試料の量について

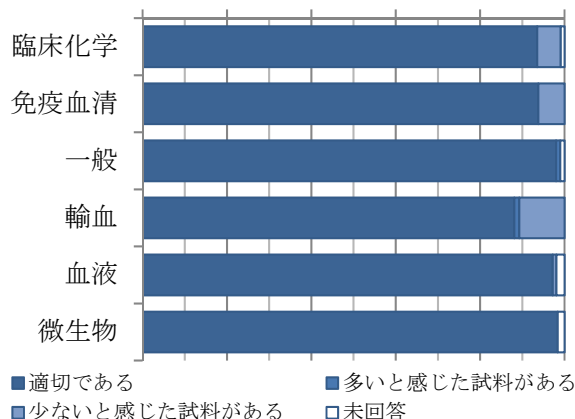


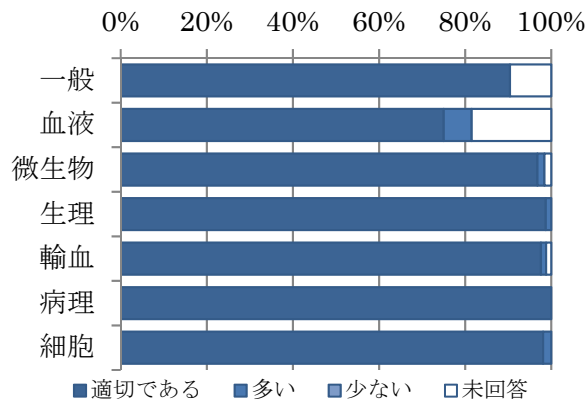
表2(タイトル不要)

	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	93.5	0.0	5.6	0.9
免疫血清	93.8	0.0	6.2	0.0
一般	98.1	1.0	0.0	0.9
輸血	88.1	1.2	10.7	0.0
血液	97.2	0.0	0.9	1.9
微生物	98.4	0.0	0.0	1.6

内訳(%)

3. フォトサーベイ部門

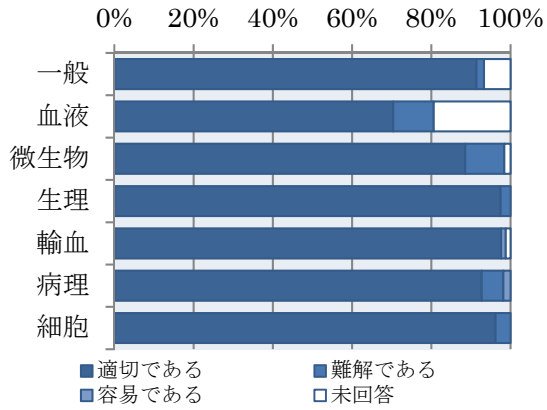
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
一般	90.4	0.0	0.0	9.6
血液	75.0	6.5	0.0	18.5
微生物	96.7	1.7	0.0	1.6
生理	98.7	1.3	0.0	0.0
輸血	97.6	1.2	0.0	1.2
病理	100.0	0.0	0.0	0.0
細胞	98.1	1.9	0.0	0.0

内訳(%)

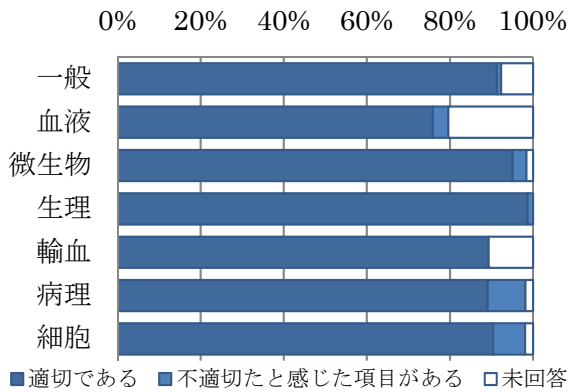
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
一般	91.3	1.9	0.0	6.7
血液	70.4	10.2	0.0	19.4
微生物	88.5	9.8	0.0	1.6
生理	97.5	2.5	0.0	0.0
輸血	97.6	0.0	1.2	1.2
病理	92.7	5.5	1.8	0.0
細胞	96.2	3.8	0.0	0.0

内訳(%)

3) 設問の内容について

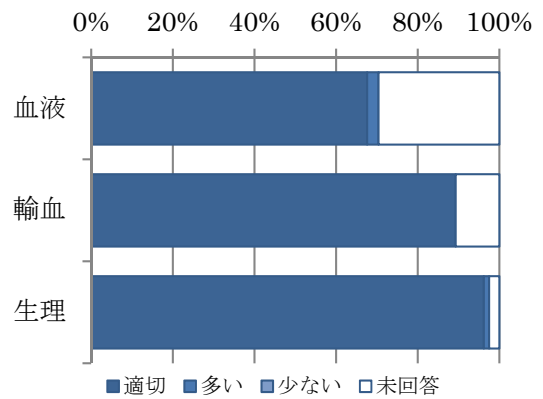


	適切	不適切設問あり	未回答
一般	91.3	1.0	7.7
血液	75.9	3.7	20.4
微生物	95.1	3.3	1.6
生理	98.7	1.3	0.0
輸血	89.3	0.0	10.7
病理	89.1	9.1	1.8
細胞	90.4	7.7	1.9

内訳(%)

4. 評価対象外設問

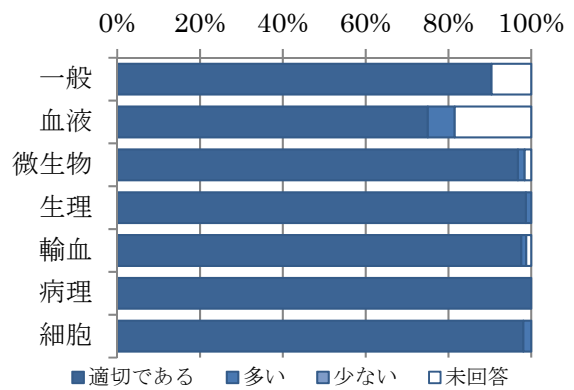
1) 設問の量について



	適切	多い	少ない	未回答
血液	67.6	2.8	0.0	29.6
輸血	89.3	0.0	0.0	10.7
生理	96.2	1.3	0.0	2.5

内訳(%)

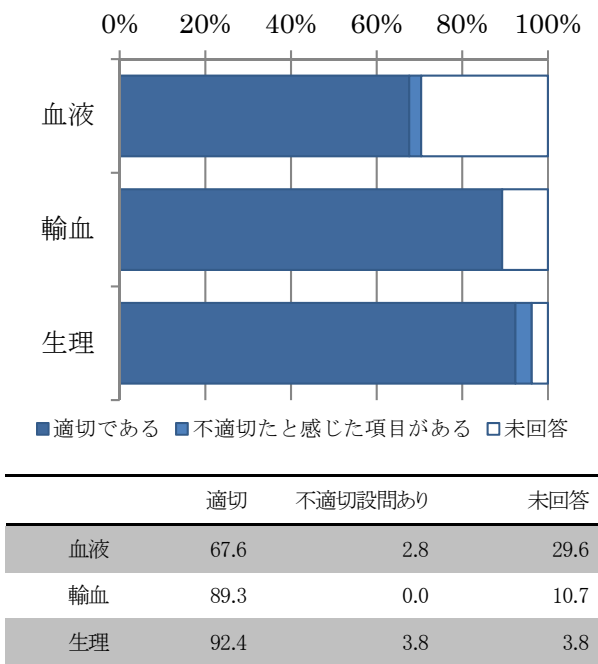
2) 設問の難易度について



	適切	難解	容易	未回答
血液	60.2	11.1	0.0	28.7
輸血	90.5	0.0	0.0	9.5
生理	92.4	6.3	0.0	1.3

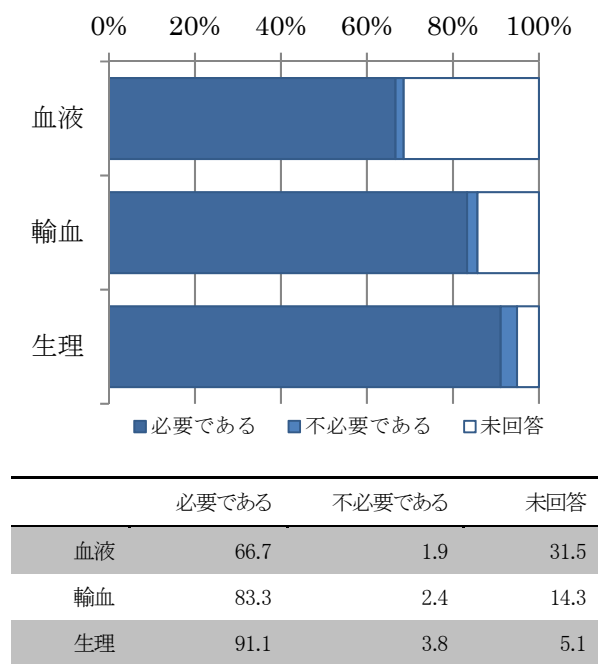
内訳(%)

### 3) 設問の内容について



内訳(%)

### 4) 評価対象外設問の必要性について



内訳(%)

## IV. 解説および考察

今年度も多くの参加施設に各種アンケートを協力して頂いた。今回実施したアンケートの集計結果から、以下の通り総括した。

1. 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費は、87%の施設が妥当、4%の施設が安いと回答した。高いとの回答は8%で昨年とほぼ同程度の割合であった。精度管理事業部としては、今後も参

加費に見合う調査実施に努めていきたい。

2. 日臨技精度保証施設認証制度は、30%の施設が認証受審済み、9%の施設が受審予定、52%の施設が受審の予定はない、1%の施設が認証制度を知らないと回答があった。精度が十分保証されている施設を増やすため、認証受審済み施設、受審予定施設の増加が次年度以降の課題であると考えます。

3. 昨年6月に医療法の一部を改正する法律（平成29年法律第57号）が公布され、検体検査の精度管理の基準や管理等を明確化することが盛り込まれたことについて、よく知っていると回答した施設は69%、なんとなく知っていると回答した施設は28%であった。医療機関における検体検査の精度管理のあり方が重要視されることを踏まえ、参加施設の信頼性保証のために精度管理事業を進めていきたい

4. 愛知県臨床検査精度管理調査の総括統計表は、93%の施設が公開メール受信後、直ちに閲覧、または、閲覧していると回答があった。次年度以降も公開メール配信を継続し周知を徹底していきたい。

5. サンプルサーベイ部門では、測定項目数、試料の量についてアンケートを実施した。

#### 1) 測定項目数について

各部門97%以上の施設が適切と回答しており、輸血部門の1.2%、臨床化学部門の0.9%の施設から多いと回答があった。また、少ないと回答した施設はなかった。

#### 2) 試料の量について

各部門88%以上の施設から適切と回答があった。少ないと回答した施設は輸血部門で10.7%、免疫血清部門で5.6%、臨床化学部門で5.6%、血液部門で0.9%あった。多いとの回答は輸血部門で1.2%、一般部門で1%あった。

6. フォトサーベイ部門では、設問の量、設問の難易度、設問の内容についてアンケートを実施した

#### 1) 設問の量について

多いと回答した施設は血液部門の6.5%、細胞部門で1.9%、微生物部門で1.7%、生理部門で1.3%、輸血部門で1.2%あった。また少ないと回答した施設はなかった。

#### 2) 設問の難易度について

難解と回答した施設は血液部門で10.2%、微生物部門で9.8%、病理部門で5.5%、細胞部部門で3.8%あった。また病理部門の1.8%、輸血部門の1.2%の施設からは容易との回答があった。

### 3) 設問の内容について

不適切だと感じた項目があると回答した施設は病理部門で9.1%、細胞部門の7.7%、血液部門の3.7%、微生物部門の3.3%であった。輸血部門では不適切だと感じた項目があると回答した施設はなかった。設問の内容は概ね適切であったと考える。

- 杉山 大輔 (JA愛知厚生連 安生更生病院)
- 鈴木 敦夫 (名古屋大学医学部附属病院)

6. 評価対象外設問では、設問の量、設問の難易度、設問の内容、評価対象外設問の必要性について、血液部門、輸血部門、生理部門でアンケートを実施した。

#### 1) 設問の量について

多いと回答した施設は血液部門で2.8%、生理部門で1.3%であった。少ないと回答した施設はなかった。

#### 2) 設問の難易度について

難解と回答した施設は血液部門で11.1%、生理部門で6.3%であった。容易と回答した施設はなかった。

#### 3) 設問の内容について

不適切だと感じた項目があると回答した施設は、血液部門で2.8%、生理部門で3.8%あった。輸血部門では不適切だと感じた項目があると回答した施設はなかった。設問の内容は概ね適切であったと考える。

#### 4) 評価対象外設問の必要性について

不必要であると回答した施設は、生理部門で3.8%、輸血部門で2.4%、血液部門で1.9%あった。

## V. まとめ

例年同様の内容でアンケート調査を実施し、例年同様の集計結果が得られた。総合的に、現状の精度管理事業部の運営に大きな問題はないと考える。

医療法の一部を改正する法律が公布され、検体検査の精度管理の基準や管理等を明確化することが盛り込まれた。精度管理事業部として、今後も参加施設の皆さまに対するサポート体制の充実に焦点を当てていきたいと考えている。

今回アンケート調査で頂いたご意見は真摯に受け止め、来年度の検討課題とし、より質の高い精度管理調査の実施に向けて取り組んでいく所存である。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

## VI. 実務担当者

精度管理事業部長：

- 菊地 良介 (名古屋大学医学部附属病院)

精度管理事業部事務局員：

- 齊藤 翠 (藤田医科大学病院)
- 寺田 達夫 (愛知医科大学病院)